令和4年度 自己評価・学校関係者評価結果公表シート

学校法人 子宝幼稚園

1. 本園の教育目標

“よく遊び よく学ぶ 瞳輝く子ども”を育てる為に、子宝を愛情をもって、優しく厳しく教え育む。教職員が、チームワークを大切にしながらも、子どもの為に切磋琢磨し、幼児教育に自信のもてる幼稚園を目指す。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

・50 周年の感謝とこれからの幼稚園の生き残りの模索
・満3歳児保育に力を入れたい
・家庭から集団生活へのスムーズな移行
・若年の育成と退職防止

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
50 周年の感謝とこれからの幼稚園の生き残りを模索	温故知新と言いますが、50周年記念として初の記念誌の作成にあたり、創立以降の多くの資料や写真等と共に、お世話になった地域の方々や歴代会長や理事や他園、そして自園の OG も含め、多くの先生との交流があり、実にありがたく一年となった子ども達からは記念の作品を役員さんや多くの方々から御礼のお手紙や御花、そして先生達からも桜の苗を頂いた。今後は多くを受け入れる時代ではなく、真に必要とされる幼児教育の施設としたい。
満3歳児保育に力を入れたい	4月から8月生まれの子どもで2クラス約30人の満3歳児クラスの入園希望者が4年目を迎え、一年の流れ、カリキュラム等も固まり、ゆったりとする中で楽しく行事も進められ、保護者の方よりも好評であった。
家庭から集団生活へのスムーズな移行	満3歳だけではなく、3歳児も近年、オムツが取れていない子が多く見られる。オムツはずしはお母さんの大切な仕事であり、それ以外でも家庭教育が余りになされていない子どもがおり、プリントや声掛けで呼び掛ける努力が十分でなく、継続したい。
若手の育成と退職防止	残念だが、50周年のこの年、新卒、既卒の先生が思う様に採用出来ず、更に途中退職と続き、近年稀に見る厳しい年となってしまった。しかし、勉強になった年と捉え、今後に生かしたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和 3 年度に続いて、4年度もコロナ禍となり、保護者の方々のご協力を得て、全ての行事を無事に行う事が出来た。創立 50 周年の記念誌の刊行や記念品の配布。子ども達と共に祝って、その年の卒園児で歴代卒園児数は 1 万人を数えた。又、少子化の中、多くの園が新制度園へ移行されたが、子どもにとって幼児教育の重要性、その必要性の理解を共有する先生達と共に、幼稚園として存在出来た事に感謝したい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
柔軟にカリキュラムの見直し	乳児に対する保育者の虐待報道が続き、小中学校の働き方改革もやっと国が本腰を入れ始めた事は、子どもにとって朗報である。今後、更に家庭での愛情と親子の絆の構築、集団生活での基礎、基本を含め、幼児教育に力を注ぐ。そして、子ども達には洗練された学校生活を過ごして欲しいものである。その中で、自園は、これからも子どもを真ん中に、教育に重点を置いて取り組みたい。その為に更にカリキュラムの見直しに努めたい。
幼児教育の重要性を認識する先生集団を目指す	今の乳幼児施設や子どもの姿に物足りなさと同時に危機感を感じている先生方も多くいる様に思う。より幼児教育の大切さを理解する“幼稚園”として本園は進みたい。
保護者の方の杖となるべく	園庭開放、満 3 歳児クラス、2 歳児親子教室（カンガルークラブ）、そして、カウンセリング等を実施しているが、更にプリントも含め、積極的に発信して、子どものより良き成長の一助としたい。又、支援を要する子どもが急増している為、保護者の方への伝え方も検討していく。
教育と福祉	出生率の低下による園児数の減少により、新制度園への移行が一気に進んだ感があり、その管轄として、新設の子ども家庭庁に含まれる事になる。私学助成園のみが文部科学省の管轄とされる中で、教育と福祉の共同と交錯が懸念される。

6. 学校関係者の評価

・コロナ禍で形が変わった行事があるものの、中止となったものはなく、例年通りに進められた事は、子ども達にとって有意義な時間となり、嬉しく思っています。
・キンダーカウンセラーとして、子ども達や先生方の様子を観察・助言しているが、支援を必要とする子どもが増えている中で、どんどん質問して、保育に役立ててくれる事を希望する。
・7月１１日に公開保育を実施した際、近隣の小学校の教頭先生より、「小学校入学後を考えた指導を意識されており、幼・小の連携の大切さについて改めて気づかされた。」というご意見を頂いた。
・今後も小学校就学に向けて、話を聞く姿勢や集団生活でのルールをきちんと習得させたいと考える。

7. 財務状況

公認会計士監査より、適正に運営されていると認められている。